

3 都市圏交通の将来見通し

本章は、現状の傾向がそのまま推移した場合の将来交通課題の検討を目的とし、国立社会保障・人口問題研究所の将来人口予測をもとに将来交通需要の変化を検討しました。

3-1 将来人口の変化

都市圏の将来(H47)人口は現況(H22)の84%に減少することが見込まれます。年齢階層別人口は、75歳以上の高齢者が1.5倍に増加することが見込まれます。人口減少は地域別に差が見られ、中山間地や郊外部など高齢化率の高い地域で人口減少が大きく、静岡中心市街地・清水中心市街地でも高齢化率が高く人口減少が大きくなっています。一方、東静岡駅や西焼津駅の周辺地域では高齢化率が低く人口減少も小さくなっています。

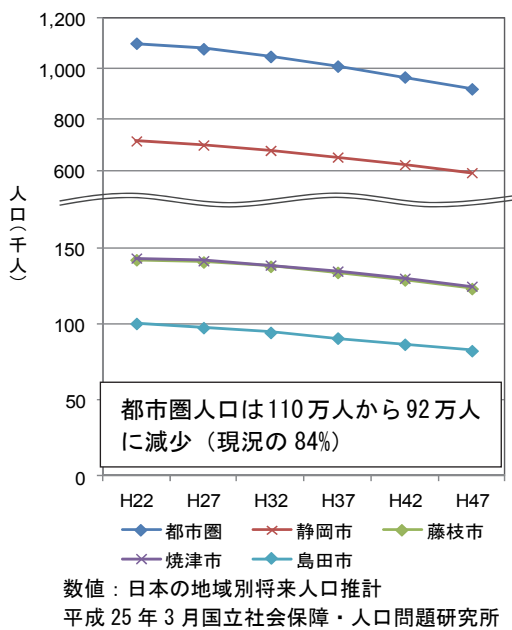


図 3-1 市別将来人口の推移

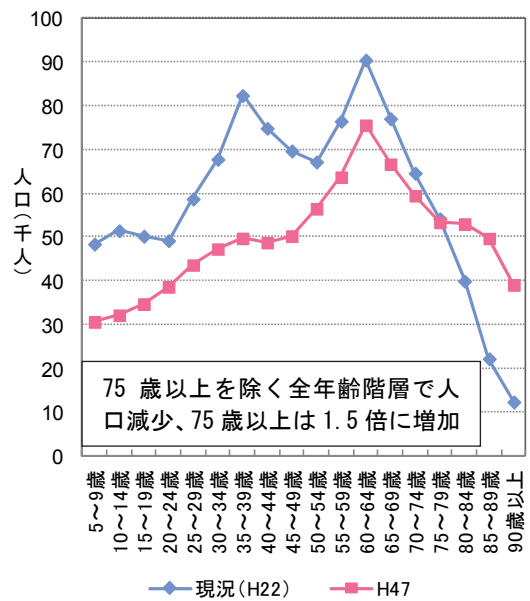


図 3-2 年齢階層別将来人口の推移

全てのゾーンで人口が減少する

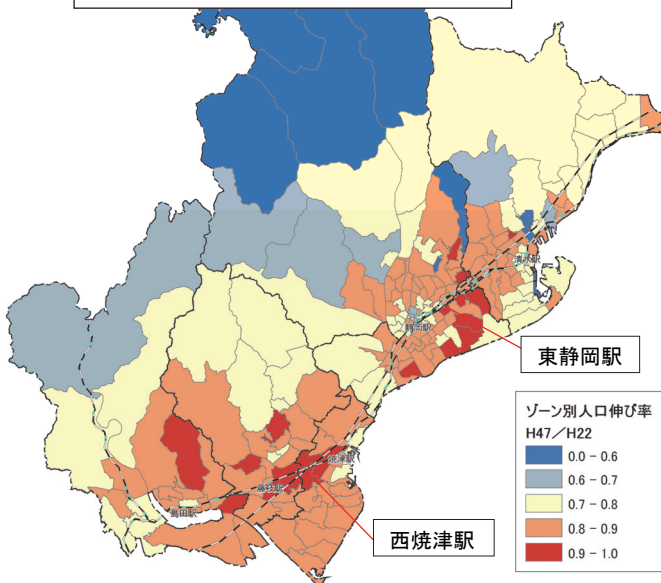


図 3-3 ゾーン別人口伸び率

東静岡駅や西焼津駅周辺は高齢化率が低い

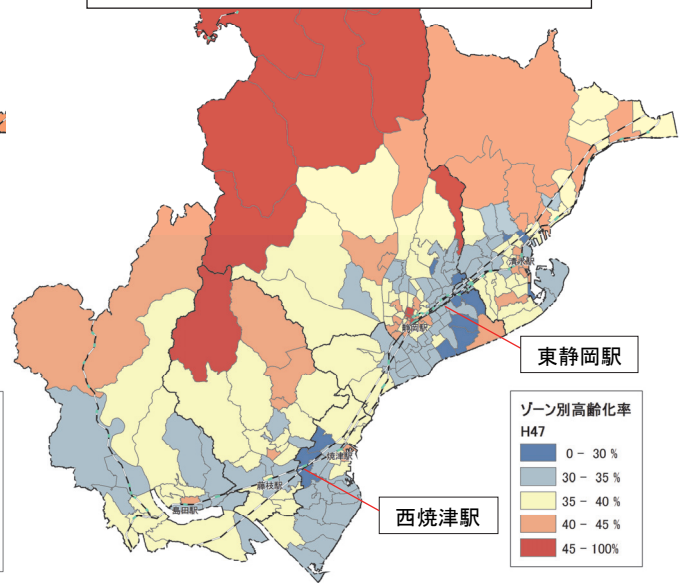


図 3-4 ゾーン別高齢化率

3-2 将来交通需要の変化

総トリップ数は現況の83%に減少しますが、年齢階層別では75歳以上のトリップ増加が著しくなっています。中山間地では、人口減少し公共交通の維持が困難となるため、自動車を利用しなければ暮らし難い生活条件に進むおそれがあります。また、静岡中心市街地・清水中心市街地では、交通量減少とともに活力が低下するおそれがあります。

表 3-1 将来目的別トリップ数 (単位:千トリップ)

目的	通勤	通学	帰宅	業務(補正)	私事	合計
平成24年度PT	435	156	1,128	224	823	2,765
平成47年度予測	326	101	925	199	739	2,291
H47/H24	0.75	0.65	0.82	0.89	0.90	0.83

総トリップ数は83%に減少し、特に通勤目的や通学目的の減少が著しい

業務(補正)は、現況業務目的原単位を補正した将来業務原単位による推計値、将来予測原単位の補正方法は参考資料参照

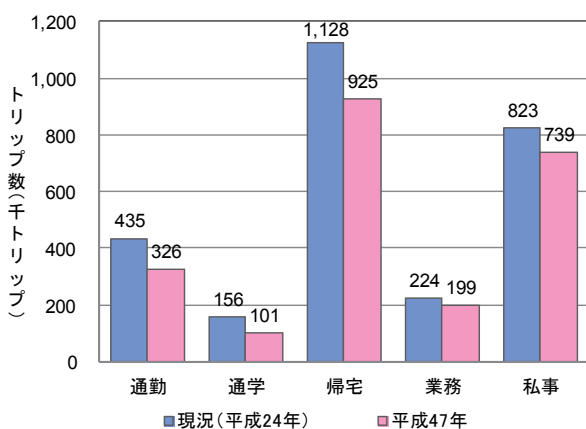


図 3-5 目的別トリップ数

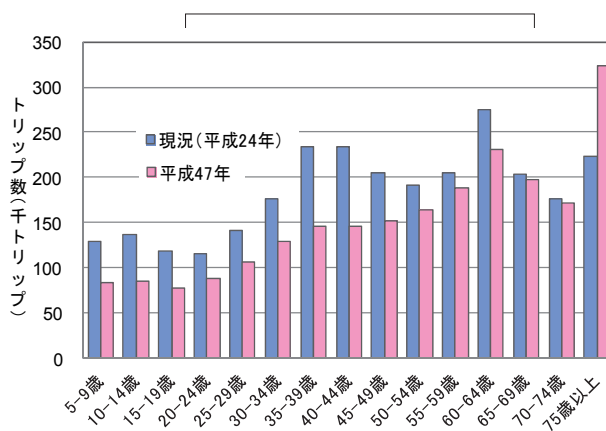


図 3-6 年齢別トリップ数の変化

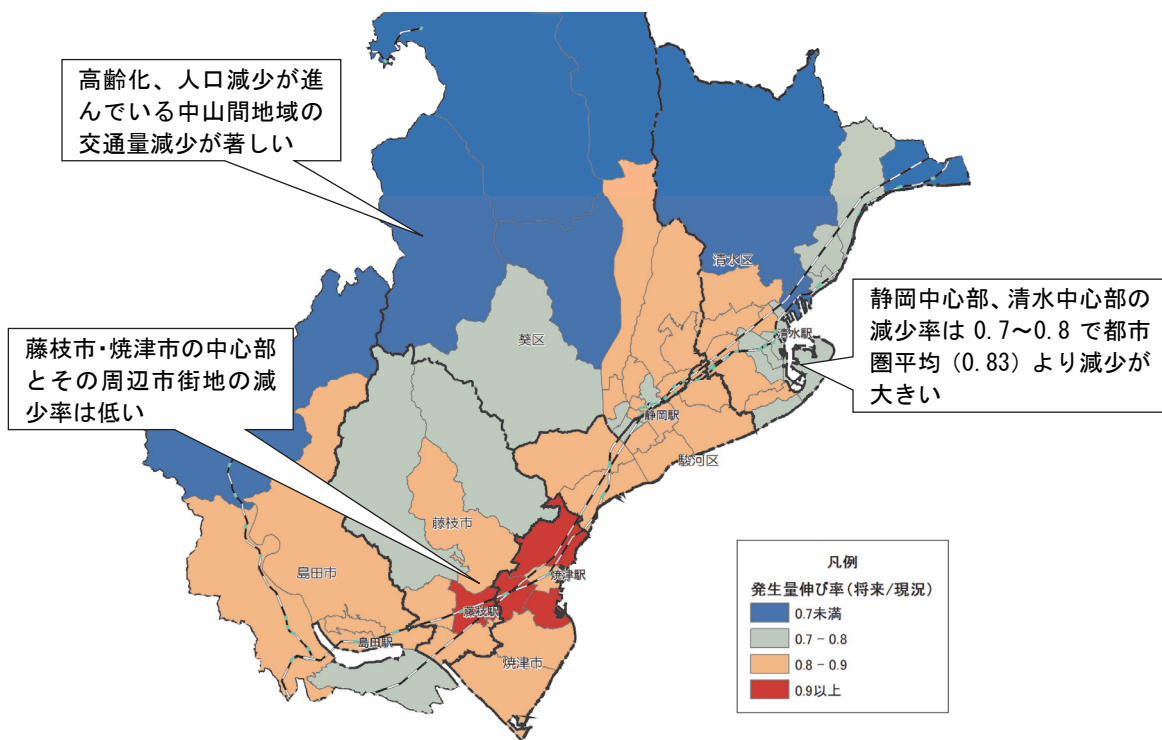


図 3-7 発生トリップ数の伸び率 (H24⇒H47)